



NHKスペシャル 人工知能 天使か悪魔か 2017

放送日:2017年6月25日 放送時間:49分

対象校種 高校

対象教科 情報 総合

この番組の良さ

● 天使か悪魔かシリーズ第2弾

近い将来、「人工知能(以下AI)が人々の仕事を奪う」などという研究結果が公表されたこともあり、AIは何か不気味な、恐ろしいイメージをもつ人が多いかもしれません。本番組では、AIの仕組みなど高度な技術の解説ではなく、将棋や産業界などでの実例とそこに関わる人々のコメントを通して、現代のAIの状況について紹介しています。本シリーズは2016、2017、2018年と現在3本放送されており、2016年放送分もティーチャーズ・ライブラリーに含まれています。そちらも参考にしてください。

● 産業や政治の世界にまでAIが

第1作と同様、今回も将棋の電王戦が取り上げられています。もはや人間が太刀打ちできないレベルになっており、たった1年で将棋AIがすさまじい進歩を遂げていることがわかります。その他、タクシーの乗車場所予測、アメリカでの犯罪者の再犯予測、企業の人事評価、AI政治家の構想など、世界中のさまざまな場面でのAI活用の事例が紹介されています。

番組活用のポイント

● 人工知能はもはや未来の話ではない

今後、人工知能やロボット、IoT(Internet of Things:身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながり、相互に情報交換する仕組み)などのテクノロジーが社会を大きく変えると言われています。しかし「そうは言っても、どうも実感が持てない」という人が多いと思います。今後の社会では、知識だけでなく、人ならではのコミュニケーション力や想像力、そして創造性が不可欠となります。学習指導要領でも、未知の変化に対応する思考力・判断力・表現力を育成する必要が述べられています。本番組の視聴を通して、これからまもなく訪れる、「人と人工知能の社会」を実感することができるでしょう。

● テクノロジーを生かすも殺すも人間

「テクノロジーの進化は止まることはありません」と番組内でも述べられています。一歩間違えば、AIやロボットは確かに人間の脅威となりうる危険性もはらんでいます。今後、人工知能の技術はさらに発展していきます。番組視聴を通して、人工知能を人々の豊かな暮らしのために生かしていくことは、人間の重要な責務であると感じ取ることができます。

● 自ら考えること、社会の主体者であること

子供たちは生まれた時からテクノロジーに囲まれ、日常的にインターネットを利用していますが、ほとんどが娯楽目的の利用となっているのが現状です。しかし、これからの社会を生きる子供たちは、AI等のテクノロジーを安全に、より良く活用して社会を良い方向に動かしていこうとする態度を育てなければなりません。本番組などを通して未来の社会について考え、情報モラル教育と共に、誰かが社会を創っているのではなく、自分たちが未来の社会を創っていくのだという主体性や創造性をもつ子供たちを育てていかなければならないでしょう。



執筆者
千葉県総合教育センター
研究指導主事 永野 直